

百人一首で覚える助動詞①

不確定な助動詞・推量・推定・意志・反実仮想

① (03) あしひきの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む(推量・連体形)
私も一人わびしく寝るのだろうかなあ

② (16) たちわかれいなばの山の峰に生ふるまつとしきかばいま帰りこむ(意志・終止形)
すぐに帰ってきましょう

③ (67) 春の夜のゆめばかりなる手枕にかひなく立たむ名こそ惜しけれ(婉曲・連体形)
甲斐なく立つ
よくな
浮き名は残念なことだ

④ (33) ひさかたのひかりのどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ(原因・推量・連体形)
どうして落ち着いた心もなく、桜の花は散り急ぐのであろうか

⑤ (36) 夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月やどるらむ(現在・推量・連体形)
雲のどのあたりに月は宿つてゐるのだろうか

⑥ (02) 春すぎて夏来にけらし白妙のころもほすてふ天のかぐ山(推定・終止形)
夏が来たらしい

⑦ (44) 逢ふことの絶えてしなくはなかなかに人をも身をも恨みざらまし(反実・仮想・終止形)
もし
あなたに逢わなかつたら、かえつてあなたを恨んだり、じぶんの不幸を嘆いたりしなかつたらうに

⑧ (68) 心にもあらでうき世にながらへば恋しかるべき夜半の月かな(推量・連体形)
きっと恋しく思うだろう

(当然・連体形)

⑨ (45) あはれともいふべき人はおもほえで身のいたづらになりぬべきかな
いつてくれ そうな人 むなしく死んでしまうことだろう
(当然・連体形) 推量・連体形

(適当・連体形)

⑩ (34) 誰をかもしる人にせむ高砂の松もむかしの友ならなくに(適当・連体形)
誰を親しいともとしたらよいのか